

学内報「DAIDO CAMPUS」は1987年の創刊から、在学生、卒業生、教職員の活躍や様々な出来事を掲載し、大同大学のコミュニケーションツールとして発行され、おかげさまで創刊100号を迎えることができました。今号では、創刊号から100号までの歴史や各時代のニュース、また、過去の連載企画を紹介します。



1999

2002



30号



40号



▲2001年1月 35号より(P.2-3)

本館・大型実験棟が竣工
滝春校舎の本館・大型実験棟(A棟、D棟)の竣工が掲載されています。「明るく、学生の集えるキャンパス」を基本コンセプトに、建物の配色は講義棟「黄色」、ゴビーホール「赤色」、本館「青色」の三原色を基調として明るいイメージを打ち出したと説明されています。



▲2002年4月 40号より(P.4)

情報学部 情報学科誕生

情報学部情報学科の設置が掲載されました。ゴビーホールで執り行われた発足式の様子が文理融合に向かう大きな方向転換であり、将来的には社会科学や芸術の要素も加えた第2学科を実現したいと、当時の澤岡学長(現名誉学長)は述べています。

こんな連載
ありました!

DAIDO CAMPUS
連載企画



産学連携 共同研究センター設立

産学連携共同研究センター設立について、当時の中日新聞、朝日新聞などに掲載され、愛知県の理工系私立大初の産学連携組織発足は多くの注目を集めたと記されています。

▲2000年4月 32号より(P.2・4)



DITロゴマーク、キャラクター決定

新キャンパス完成を記念し、本学のロゴマーク、シンボルカラー、キャラクターの決定が掲載されました。当時のシンボルカラーは青、緑でキャラクターにはまだ名前がありませんでした(後にデイトちゃんに決定)



▲掲載記事:2000年1月 31号



本学同窓会のシンボル「ゴビー」君が散歩するよなんびりした雰囲気、先生に語ってもらう企画。自身の研究やプライベートでの海外旅行や子供時代の思い出など様々なテーマで自由に語ってもらいました。

研究室を 訪ねて

企画名のとおり、各研究室を訪ね、成功談や苦労した経験などを交えて、先生方の研究について大いに語ってもらう企画。第6回に登場した神保現学長は、「国際コンピュータ戦争の最前線」と題し、当時の日本とアメリカによる熾烈なコンピュータ開発競争を語っています。

▶掲載記事:2001年1月 37号





2004

2007

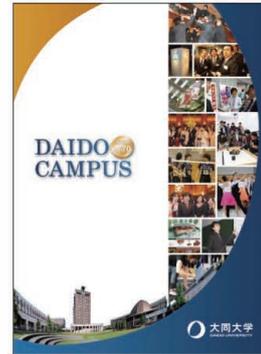
2010



50号



60号



70号

**東海地区で初!
平成18年度ロボティクス学科を新設。
中日新聞も大きく報道**

04 DAIDO CAMPUS No.52

▲2005年4月 52号より(P.4)

東海地区で初!ロボティクス学科新設
ロボティクス学科(現機械システム工学科)の新設が当時の中日新聞で大きく報道されたことが掲載されています。同時期に開催された「愛・地球博」でもロボットは人気を集め、ロボティクス学科の新設は大きな注目を浴びていると掲載されました。

2005 NEWS
DIT『愛・地球博』に参加!

2005年、愛知県で開催された国際博覧会「愛・地球博」に本校が参加し、各種イベントで活躍の様子を紹介されています。「モノづくりランド・シンフォニア」における西堀ロボティクス・ラボによるサッカーロボット、サーカスロボットの実演等が掲載されています。

04 DAIDO CAMPUS No.54

▲2006年1月 54号より(P.4)

「愛・地球博」に参加!
2005年に愛知県で開催された日本国際博覧会「愛・地球博」に本校からも参加し、各種イベントでの活躍の様子が紹介されています。「モノづくりランド・シンフォニア」における西堀ロボティクス・ラボによるサッカーロボット、サーカスロボットの実演等が掲載されています。

新たな学びが、大同大学から始まる。
大同工業大学から大同大学へ。

02 DAIDO CAMPUS No.67

▲2009年4月 67号より(P.2)

大同工業大学から大同大学へ
大同大学への校名変更にあたって、当時の澤岡学長(現名誉学長)は、「より創造的で感性や芸術性を持った“人”を育て、新しいものづくり文化を築くことが大切であり、そのために大学自身も変わらなければならない」と述べています。

トコ先生 大活躍!

澤岡 昭学長
中日新聞に連載、始まる。
「宇宙は手の届くところに」

04 DAIDO CAMPUS No.68

▲2009年7月 68号より(P.8)

「宇宙は手の届くところに」連載スタート

澤岡学長(現名誉学長)が、宇宙開発にかかわる夢のある話や星空に情熱を掲げた人たちのエピソードをつづる、「宇宙は手の届くところに」の中日新聞での連載スタートについて掲載されています。連載は毎月第4木曜日に1年間掲載されました。

学生の 勇姿!

**東海学生ハンドボール春季リーグ戦
女子が初優勝!男子も西日本インカレ出場決定!**

04 DAIDO CAMPUS No.85

▲2015年7月 85号より(P.4)

女子ハンド春季リーグ戦初優勝!

女子ハンドボール部が東海学生ハンドボール春季リーグ戦で初優勝を成し遂げたことが紹介されています。全勝同士の最終戦で、8期連続優勝を誇る強豪の中京大学を相手に、29対16と大差をつけて勝利したと掲載されています。



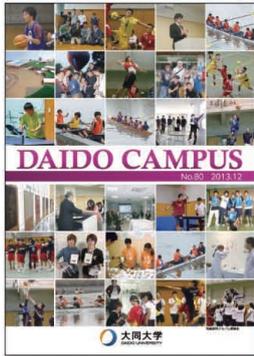
バックナンバーは
本学HPで閲覧することができます。
<https://www.daido-it.ac.jp/life/publication/>



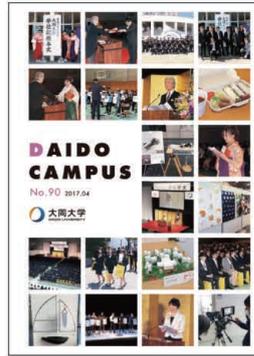
2013

2017

2020



80号



90号



100号



▲2016年12月 89号より (P.2-3)

男子ハンド初の春秋連覇!

男子ハンドボール部が東海学生ハンドボールリーグ戦で初の春、秋連覇を達成したと紹介されています。中部大学との全勝同士の対決で6点差を覆す大逆転勝利を収め、最終戦を待たずして優勝を決めたことが掲載されています。



▲2017年4月 90号より (P.3)

神保新学長就任
神保陸子現学長の就任メッセージが掲載されました。自身の学長就任が、女性が輝く社会づくりのきっかけになればいいと述べています。

こんな連載
ありました!

DAIDO
CAMPUS

連載企画



▲2017年12月 92号より (P.3)

男子バレー初優勝!

男子バレーボール部が東海大学男子バレーボールリーグ戦秋季大会で創部から53年、初優勝を成し遂げたことが紹介されています。中京大学との最終戦は惜しくも黒星でしたが、得失点差で優勝を飾ったことが掲載されています。



ほろかな
グルメスポット

本学近辺の学生向けグルメスポットを紹介する企画、お店の人気メニューや店内の雰囲気、店主のこだわり、熱い想いなどが掲載されました。本誌掲載時にはお店に大行列ができたか?!

▲掲載記事:2004年4月 48号



▶掲載記事:
2007年10月 62号
兄弟・親子で本学に在学した学生等へインタビュー、本学を選んだ理由、なぜ兄弟・親子で進学したのか、また、本学の良さなどについて語っていただきました。



▲掲載記事:2008年7月 65号

DIT CAFE.

学内の「和」を広げるため、「DITCAFE」をオープン。リレー形式で「映画・ビデオ・小説・マンガ・レジャー……」など様々なテーマで卒業生、在学生、教職員が自由に語っています。第1回は、堀木俊宏さん(現学生室)でした。

2021年春、 新キャンパス誕生。

メインキャンパスにつながる
新時代の学びの空間。



新キャンパス建設に携わった卒業生による座談会を開催

2019年5月に着工し、東京オリンピックの影響による人手不足や資材高騰、世界的な新型コロナウイルスの流行と数々の困難を乗り越えて、大同大学の新たなシンボルとして、ここによく建築学科の新キャンパスが完成しました。校舎のいたる所に学生の憩いの場を配し、校舎そのものが生きた教材となるよう様々な工夫が凝らされた新キャンパスは、きっと学生達を笑顔にし、学びの楽しさを伝えてくれることでしょう。今回は母校の新キャンパス建設に携わった本学の建築学科のOBOG3名にお集まりいただき、母校の新キャンパス建設に寄せる想い、また、新キャンパスに込められたこだわりなどを語っていただきました。



司会: 今日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。まず、新キャンパス建設に関わる皆さんの役割についてお聞かせ願えますか。

西村: 私はこの新キャンパスの建設に伴い、工事着工の1か月前、2019年4月に本学に着任しました。図面はすでに出来上がっていましたので、それをもとに着工後のメンテナンスや完成後に新キャンパスを維持していくための意見を出す役割を任せられました。設計会社、経営陣、建設PJのリーダー、そして建築学科の先生方など、たくさんの方々の意見を集約することに奔走したように思います。



掛札知希さん
工学部建設工学科建築学
専攻を2004年3月に卒業。
(株)大林組名古屋支店
大同大学工事事務所所属。

掛札: 私と部下の深谷は施工管理を行うべく着工とほぼ同時にこの現場に配属されました。ちょうど配属の数日前、社内の本学OBOG20名

ほどで会食する機会があり、その際「俺たちの母校だから良い建物をつくってくれよ」と散々言われ、結構プレッシャーが大きかったと同時に母校の建設に携われる喜びも感じました。

深谷: 私は大学を卒業して初めて現場監督として担当する現場でした。職人さんに指示を出し、指示通り工事が進められているかを確認するのが私の役割です。母校の建設に携われて嬉しいなという想いと後輩のためにも良い建物をつくりたいというのが率直な気持ちでした。そして、とにかく最後まで突っ走って頑張り切りたいと強く思ったことを今でも覚えています。

司会: 新キャンパスの見所はどんなところですか？

西村: このキャンパスの中で一番目をひくのがメインキャンパスにつながるDクロスモールですが、それ以外にもこだわっているところはたくさんあります。“見て触れて学べるキャンパス”が設計コンセプト

になっているため、とにかくガラス張りの部分が多いのが特徴です。例えばエレベータはエンジンの駆動部まで見ることができ、空調機械室は機械本体から繋がっている配管、ダクトまで見えるようスケルトンになっています。また建築実験室は天井を張っていないので、エアコンやスピーカーのダクトまで良く見えますよ。通常なら天井裏に隠れる部分なのに、こんなに綺麗に仕上げていただいて逆に申し訳ないと思うくらいです(笑)。

掛札: そうですね。通常は建物をつくる際、見えない部分は見えない部分としての仕上げ方があり、見える部分に全力を注ぐのですが、このキャンパスは全部を見せる設計のため、全てに配慮して気を配る必要がありました(笑)。またスケルトン以外にも“学ぶ”にこだわった部分としては、その特徴の違いがひと目でわかるよう、さまざまな種類の木を並べて見せたり、設備の解説を表示するなど、随所に学び

建設進行定点観測



2019.6.13 新校舎の工事が始まりました



2019.7.18 整地作業が始まりました



2019.8.22 クレーンなどの重機が入りました



2020.10.22 竣工間近です！



2020.10.22 Dクロスモールも完成してきました



2020.8.28 Dクロスモールにガラスがはまりました



の場を設ける工夫を凝らしています。

西村: 私は使いやすい建物であること、そして時が経っても可能な限りきれいを維持できるための意見を言ってきたので、通常では目につきにくい部分にもこだわりや工夫をたくさんお願いしました。例えばコーナーガードをつける、外壁は劣化しにくい部材にする、傷つきにくい床材にする、メンテナンスしやすいよう天井に何か所も開口部を設けるなど。当初の設計から変更された箇所も数えたらきりがありません。

司会: なるほど。そのために西村さんが招集されたわけですね。かなり無理難題も要求されたようですが、要求を受ける側の深谷さんはどうでしたか。

深谷: 新キャンパスを良いものにしたい気持ちは同じですので、応えられるものには応えていきたいと考えていましたし、こちらからもさまざまな提案をさせていただきました。たとえばDクロスモールのエントランスにある木のルーバー。学生さんたちが触って傷がついたりしないよう、本来では使用することはない堅い性質のゴムの木を使用したりしています。

西村: 見どころとしては、やはり贅沢につくったDクロスモールの天井でしょうね。

掛札: 本来であれば天井はコンクリートを打設した後、天井ボードを貼ったりするのですが、この新



西村勇樹さん
工学部建設工学科建築学専攻を2002年3月に卒業。(学)大同学園法人本部総務部管財室勤務。

キャンパスではコンクリート型枠になっています。通常なら長さ180cm×巾90cmの木の板を敷き並べるのが一般的なところ、なんと長さ180cm×巾3cmの板を何万枚も敷き詰めて、細い木のラインが見えるようにコンクリートを打っています。本来ではあまり経験しないような特殊な見せ方をしました。

西村: 天井の両端まで全部ですからね。丁寧にやらないといけないし、ミスは直せない。コンクリートが固まったらやり直しがきかないし、気を抜いているところは見たらすぐにわかってしまうので、まさに職人泣かせの仕様でした。

掛札: この天井以外にも、私が15、6年建設業をやってきた中で、経験したことのない工法や仕上げがたくさんあります。ですから職人さんに教えながらも自分自身で手探りの部分もあり、本当に苦労しました。

司会: ベテランの掛札さんも経験したことのない工法がたくさんあるというところが、この新キャンパスそのものが学びの場といわれる理由なのですね。

西村: そうですね。建築学科の先生方も趣向を凝らした仕様、施工を見て驚いていたほどです。これからは、建築工法を学ぶために、わざわざ『〇〇の建物を見に行っ』ではなく『キャンパス内の〇〇を見て』と言ってもらえると思います。

司会: 最後に、OBOGを代表してこだわりの詰まった新キャンパス建設に携わることが出来た

感想をお聞かせください。

西村: 素晴らしい校舎が完成したと思います。後輩達には建築物の表面だけでなく本質を知って建築を学んでもらいたい。そんな想いからも、私たち大学側にとって、これから入学してくる学生達が、この新キャンパスで学べるのが一番嬉しいことです。きっと詰め込んだ想いも届くと思います。

掛札: 私は学生時代、有名と言われる建物を見に出かけては写真などを撮ったりしていましたが、これからここで学ぶ後輩たちはそんな必要はありません。新キャンパスのいろいろな仕上げをよく見て活用していただけると嬉しいです。机上での学びではなく実際に見て触れることができる建物がすぐ目の前にあるのは、すごく素晴らしく意味のあることだと思います。後輩のために、新キャンパスの建設に携わられたことを嬉しく思いますし、誇りに思います。

深谷: 母校の建設に携わることなど、誰もが経験できることではありませんので、このような機会に恵まれたことは幸せなことだと思っています。実学主義を掲げる大同大学ですが、この新キャンパスはそれに沿ったキャンパスになっていると思います。私ももう一度ここで授業を受けたいなと思うほどの校舎が出来上がりました(笑)。



深谷結衣さん
工学部建築学科建築専攻を2018年3月に卒業。(株)大林組名古屋支店大同大学工事事務所所属。



2019.10.10 基礎を作り始めました



2019.11.28 1階の基礎ができてきました



2020.1.16 鉄骨柱が立ち始めました



2020.4.2 外装工事が始まりました



2020.4.2 全体の鉄骨が完成してきました



2020.2.6 Dクロスモールの骨組みができてきました

末武和真さん、杉浦大輝さん、中田基晶さん
(総合情報学科 経営情報専攻)

【未来を切り拓く志を支援する「社会スタディ」プログラム】を修了しました

2月12日(水)、公益社団法人私立大学情報教育協会が主催する「未来を切り拓く志を支援する「社会スタディ」」に情報学部 総合情報学科 経営情報専攻 3年 末武和真さん、杉浦大輝さん、中田基晶さんの3人が参加し、プログラムを修了しました!

「社会スタディ」は、情報通信技術を活用して新しい価値の創出の重要性に気づき、早い段階から発展的な学びが展開できることに期待されて開催されており、国・公・私立大学の1年生および2年生を対象にしています。最近では、地方学生のためのネット参加もできるようになりました。参加者は終了後に学びの成果物を作成、審査を受けたのち、「修了証」が発行されます。

参加者の杉浦さんは「このプログラムに参加したことで、学外に一步踏み出し、他大学の方とも積極的に交流が出来てよかったです。」と語っていました。

JUCE 公益社団法人私立大学情報教育協会
<http://www.juce.jp/sangaku/syakai-study/>



永田峻将さん(大学院 工学研究科 建築学専攻)

第9回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞で優秀賞を受賞しました

東海エクステリアフェア実行委員会主催「第9回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞」にて、大学院 工学研究科 建築学専攻 修士課程2年 永田峻将さんの作品「路上園芸の「グリーンバンク化」と新たな緑化空間」が、公共・都市空間のエクステリア部門で優秀賞を受賞しました!

E&G DESIGN 学生デザイン大賞は、屋外環境におけるエクステリア・デザインの向上を目指し、空間・デザイン系を学ぶ学生から新鮮で独創的なアイデアを広く募集するものです。2020年は、「ソトの暮らし方、生きがい〜幸せ感あるエクステリア〜」をテーマに、〈住空間〉〈商業空間〉〈公共・都市空間〉の3部門における、住まい方や利用の仕方、身体面・心理面、省エネ・環境性等の要素と空間の関わり方を考慮した空間デザインが求められました。

審査員からは、「表現が実がいい。路上園芸の調査→発見の図から、私的空間と公共空間の境を、植物への関わりが繋ぐというデザインの意味も大きく評価できる。」など高い評価を頂きました。永田さんも「この度はこのような賞を頂き、とても嬉しく思います。刺激的な同期と優秀な先生方との議論・ご指導があったおかげだと思います。修士論文のスタートとして提出した作品で外部評価を得ることが出来たので、これからより一層、研究・作品制作に努めていきたいと思ひます。」と喜びのコメントを寄せています。

新型コロナウイルス 感染拡大に伴い、2020年4月11日に予定されていた授賞式・受賞者のプレゼンテーションは中止となりましたが、入賞者には賞状と副賞、入賞者パンフレットが送られ、来年度のイベントポスターに作品が掲載される予定です。

第9回 E&G DESIGN 学生デザイン大賞
<https://eg-fair.jp/compe/>



山本俊介さん(大学院 情報学研究科 情報学専攻)

新生銀行が開催したデータ分析コンテスト「新生ハッカソン」において最優秀賞を受賞しました

新生銀行グループでは、データサイエンスに興味のある大学生・大学院生に対して、ビジネスデータを用いた実践的な分析機会の提供を目的に、データ分析コンテスト「新生ハッカソン」を毎年開催しています。

今年は、2月17日(月)から2月28日(金)の9日間の期間で開催しました。なお、開催期間全日程をととして、新型コロナウイルスの感染予防対策(参加者・関係者の手の消毒、マスク着用の推奨等)を講じたうえで開催しました。

「新生ハッカソン」とは、参加者の学生が、カードローン商品に申し込んだお客さまの1年後の貸し倒れ確率を予測するモデルを開発するにあたり、最新の機械学習手法を用い、モデルの精度やアイデアの新規性・発展性を競うものです。新生銀行グループが保有する大量のデータを外部の視点から分析し、金融サービスのコア技術である「個人信用リスク予測」の高度化を目指します。今回で4回目の開催となる「新生ハッカソン」には、300名以上の応募者があり、12名の大学生・大学院生が参加しました。

最終日の成果発表会では、各参加者より、開発したモデルのフレームとアピールポイント、モデルを活用した分析結果についてのプレゼンテーションが行われました。最も判別力が高かったモデルを開発した参加者に授与する最優秀賞に、大学院 情報学研究科 情報学専攻 修士課程2年の山本俊介さんが選ばれました。

2020年開催「新生ハッカソン」の結果PDF
<https://pdf.irpocket.com/C8303/bbZB/z38u/LzVj.pdf>



情報デザイン学科

6/16(火)中日新聞夕刊で情報デザイン学科の学生と企業が連携した大学PRグッズ開発についてのインタビュー記事が掲載されました



6月16日(火)の中日新聞夕刊に、情報学部 情報デザイン学科の学生が安城市の企業(アンジョウハーツ)と連携し、大学のPRグッズを開発したことが取り上げられました。開発された大学のPRグッズは、大学内で回収したペットボトルキャップのリサイクル材を使用し、本学の入試・広報室のマスコットキャラクターである「だいづう」をモチーフにした「ブックストッパー」、リンゴ形の傘ストッパー「umbllalla(アンブララ)」が製品化されることとなりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、集まって話し合うことができなかったことから学生たちはSNSなどを駆使しながら打合せをし完成までこぎつけました。記事の中で情報デザイン学科 岡田准教授は「学生の深い学びにつながり、達成感のある取り組みだった」と感想を述べていました。

▲6月16日(火)付 中日新聞

完成した「ブックストッパー」「umbllalla(アンブララ)」は、6・7月に資料請求した方、10月のオープンキャンパスに参加された方にプレゼントしました。

記事の詳細はこちら(全文読むには会員登録が必要)
<https://www.chunichi.co.jp/article/73782>



山本俊介さん(大学院 情報学研究科 情報学専攻) 「AI Quest」2020 アセスメントに ついて5位を獲得しました

経済産業省の育成プログラム「AI Quest 2020」の受講生に大学院 情報学研究科 情報学専攻 修士課程2年の山本俊介さんが参加権を獲得しました。

「AI Quest」とは、近年AI技術が加速的に発展しているなか、企業におけるAI活用のニーズの高まりを受け、特にAI・データを用いて企業の課題を解決できる人材が求められています。経済産業省は、こうした人材に対応した新たな育成プログラムを開発するため、2019年6月に政府で決定したAI戦略2019に基づき、2019年度から「AI Quest」を実施しています。

「AI Quest」は、従来の講師が一方的にカリキュラムを教える形式の手法とは一線を画し、企業の実際の課題に基づくケーススタディを中心とした「実践的な学びの場」において、参加者同士がお互いにアイデアを試し、学びあいながら、一人一人がそれぞれの体験として、AIを活用した企業の課題解決方法を身に付けることを目的としています。本プログラムを受講することにより、技術・知識としてAIを学ぶだけでなく、実際のプロジェクトに関わらないと身に付きにくい知恵を学ぶことが出来ます。

このプログラムに参加するには、エントリーシートの審査とアセスメントでのスコア獲得が必要となります。山本さんは、総応募者数841名のうち5位を獲得し、参加権を得ることが出来ました。

AI Quest2020に関する情報はこちら
<https://signate.jp/lp/ai-quest/2020>



長谷川雅徳さん、渡辺優樹さん(機械システム工学科) 音楽雑誌「stereo」に学生の作品が 掲載されました

オーディオの総合月刊雑誌「stereo」の2020年10月号に、雑誌が主催する「第3回学生対抗スピーカー甲子園」のノミネート作品として、工学部 機械システム工学科の4年 長谷川雅徳さん、渡辺優樹さんが製作した作品「ダイドー君」が掲載されました。

記事の中で、工作経験が乏しい2人が初めてのことで苦労した点や、スピーカー製作の奥深さを体験できて楽しかった様子が語られています。



▲「stereo」10月号

また9月下旬に開催されたプレゼン&審査会には、長谷川さん、渡辺さんは出席することができませんでしたが、2人の指導教員である大嶋和彦教授が代理として出席されました。プレゼン&審査会では、共通課題曲とこのスピーカーで聴いてほしい曲を再生して、視聴審査を行いました。先生は聴いてほしい曲として、辺見マリの「経験」を流しました。なお、プレゼン&審査会の様子は同雑誌の11月号に掲載されています。

出口智也さん、広瀬陽介さん(大学院 工学研究科 都市環境デザイン学専攻) 日本都市計画学会中部支部 研究・活動交流会で発表しました

第31回日本都市計画学会中部支部研究発表会にて、大学院 工学研究科 都市環境デザイン専攻 修士課程2年の出口智也さんが研究発表を行いました。また、当日午後開催された研究・活動交流会では同じく大学院 工学研究科 都市環境デザイン学専攻 修士課程1年の広瀬陽介さんがポスター発表を、樋口恵一講師が支部創設30周年リレーションジウムで登壇しました。

今回の発表はオンライン開催で、下記の内容を発表しました。

- 【研究発表】
出口智也「車道混在型自転車通行空間の利用に及ぼす要因分析」
- 【ポスター発表】
広瀬陽介「PMVを活用した高齢者が気軽に歩けるまちづくりへの挑戦～ Step1 利用ニーズ・ターゲット層の確認～」

室谷大至さん(建築学科 建築専攻) 感謝状を授与されました

迷子の男児を保護したとして、愛知県南警察署から工学部 建築学科 建築専攻 4年 室谷大至さんに感謝状を授与されました。

室谷さんは5月下旬の20時ごろ名古屋市南区柴田本通の交差点付近を歩いていたところ、その付近で1人泣いている男子小学生を発見。心配になって室谷さんが声をかけ、男児を保護し名古屋市南区白水交番まで連れて行きました。その後、男子小学生の親から捜索願が出されていたことが判明し、後日警察より感謝状が授与されました。



鈴木翔也さん(情報システム学科) 感謝状を授与されました

電子マネーをだまして買わせる手口の詐欺を防いだとして、犬山警察署から情報学部 情報システム学科 4年 鈴木翔也さんに感謝状が授与されました。

鈴木さんは6月13日(土)の18時ごろ犬山市のセブンイレブンでアルバイトをしていたところ、同市の70代男性が立て続けに3度も来店し、その都度多額の電子マネーを購入。3度目に不審に思った鈴木さんとアルバイト仲間が声をかけ、男性に事情を聞いたところ2人は詐欺と直感し、男性に警察に連絡するように勧め、詐欺を防ぎました。



▲感謝状を受け取る鈴木さん

服部啓吾さん、伊藤優花さん、村瀬電矢さん、吉田圭佑さん、石川晟さん、加藤大季さん、北村淳美さん、兵頭終馬さん(情報デザイン学科)

「第11回ポスターグランプリ」にて 8名が入賞しました

中部地区印刷協議会を構成する愛知・岐阜・三重・石川・富山の5県印刷工業組合と愛知県印刷協同組合が主催する「第11回ポスターグランプリ」で情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 3年・4年の8名が入賞しました。入賞者は右記のとおりです。今回の課題は「NEXT」。応募規定であるB1サイズ(728×1030mm)のポスター制作に夏休み期間を使って取り組み、それぞれの自由な発想から「NEXT」を表現しました。一般デザイナーの応募者を含むコンテストでの健闘でした。おめでとうございます!

第11回ポスターグランプリ入賞者の一覧はこちらから
<http://www.ai-in-ko.or.jp/index.html>



名古屋教育委員会 服部啓吾さん(4年)
愛知県印刷工業組合理事長賞 伊藤優花さん(3年)
新キングコーポレーション賞 村瀬電矢さん(3年)
富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ賞 吉田圭佑さん(3年)
入賞 石川晟さん(3年)
入賞 加藤大季さん(3年)
入賞 北村淳美さん(4年)
入賞 兵頭終馬さん(3年)

光田恵研究室(建築学科 かおりデザイン専攻) 「サンデー毎日 5/3増大号」に 研究室が紹介されました

毎日新聞出版が発行する「サンデー毎日」の5月3日増大号に、かおりデザイン専攻の光田恵研究室が紹介されました。「ゼミナル・ラブ!」という巻頭のカラー 1ページで毎週掲載されている企画で、様々な大学で行われているユニークな研究活動が紹介されています。

記事では、光田研究室での動きを色付けて可視化したり、化学反応を検証したりして「におい・かおり」の測定・評価技術を学んでいることや、超高齢化社会の課題でもある介護環境の臭い対策に取り組んでおり、在宅介護の負担を軽減する消臭グッズなどを企業と共同で商品開発している旨が紹介されました。

サンデー毎日5月3日号についてはこちら

<http://mainichibooks.com/sundaymainichi/backnumber/2020/05/03/>



西堀賢司名誉教授、篠原主勲研究室(機械システム工学科) 中部イノベネットの取材を受けました



▲取材時の様子

6月25日(木)に西堀賢司名誉教授と機械システム工学科の篠原研究室が、中部地域の研究機関、産業支援機関が連携し、中堅・中小企業の技術開発を支援する「中部イノベネット」の取材を受けました。

西堀名誉教授は、愛知県の伝統工芸品である有松・鳴海絞りの職人の高齢化や

後継者不足で、技術伝承が難しい現状の問題解決に臨み、簡単に絞りの括り作業を行う「絞りロボット」を2013年に開発しました。その研究は現在も共同研究として篠原研究室が引き継ぎ、ロボットの小型化・実用化に向けた研究が進んでいます。

写真のモニター画面は、絞りによる布とキャップの応力分布を示します。青色は応力が無い状態を示し、赤色に遷移するに従い、応力が集中する状態を示します。布の破断防止や染料の制御を目的とし、シミュレーション技術(CAE解析技術)を有松鳴海絞りロボット設計開発に役立てています。

取材では絞りロボット開発の経緯や苦労話、現在も改善のため様々な試みを重ねる篠原研究室での様子が語られました。

樋口恵一研究室(建築学科 土木・環境専攻) 三重県主催のイベントの運営に携わりました

交通事故が増加している高齢ドライバーの免許返納の促進、公共交通等の新しい乗り物を体験乗車していただくことを目的に、『大人のための次世代モビリティセミナー&試乗会』が三重県桑名市の大山田コミュニティプラザで開催されました。

当日は樋口恵一講師のセミナーと、低速電気バスおよびパーソナルモビリティの試乗が行われ、本学の学生8名も試乗会のフォローや運営に携わりました。



▲イベントの様子

川福基裕研究室(電気電子工学科) 無線駆動車両走行会を実施しました



▲走行会の様子

9月18日(金)に電気電子工学科 川福研究室の4年生が、研究の基礎学習最終課題として無線駆動車両(RCカー)の走行会を実施しました。

この走行会は川福研究室で毎年実施している研究発表会で、複数のチームに分かれて課題(カメラを搭載したRCカーを別部屋から操作し、走行させるプログラムを作成)に取り組んだ成果を披露します。ドライバーはRCカーに搭載されたカメラの画像をPCの画面で見ながら操作します。単に走行するだけでなく、チームごとにギミック(仕掛け)を追加することが条件になっており、今回は、ゲームのコントローラーで運転することができたり、トレース機能を使用し、運転しやすくするためのギミックが搭載されていました。

参加者は機敏に動くRCカーをコントロールするのに苦労しながらもすぐに慣れて、ギミックを用いて走行することを楽しんでいました。

なお、この走行会で指摘された事項や学生自らが気づいた改良点を基に、本格的な卒業研究に取り組んでいきます。

各チームに課せられた課題(条件)は以下のとおりです。

課題(条件)

- チームに分かれて設計する
- 貸与のRCカー・基板・カメラを用いる。
- RCカー本体の改造はしない。
- 参加者の質問には全員が答えられるようにすること。
=全員がちゃんと参加している事の証。
- ベースとなるプログラム群を改造し、走行プログラムを作成する。
- PCにUSB接続したハンドルとステアリングに連動してRCカーが駆動するプログラムとする。
- RCカーに搭載したカメラ画像をPC上で確認できること。
- 走行速度は安全と思われる範囲で各チームで設定する。
- なにかギミックを追加する。=単に走行できるだけにしない。

上岡和弘研究室、舟橋慶介研究室(情報デザイン学科) 瓦猫プロジェクト始動中!

情報デザイン学科 上岡研究室と舟橋研究室では、両研究室の3年生と共に、高浜市の瓦製造メーカー三州野安(株)から依頼された、瓦素材を使用した猫用ペットハウスの商品開発とプロモーション活動を行っています。



▲プロジェクトの様子

今春のコロナ感染対策の最中から、総勢16名の3年ゼミ生と夏休みも返上してリモート形式で企画制作を進めてきました。写真は、9月15日(火)に三州野安(株)に訪問した際のもので、当日は、試作品を使って実際の猫の行動を検証したり、瓦素材の焼き色テストの確認などを行いました。また、地元ケーブルテレビKATCHにも取材いただきました。今後は、11月のインターペット愛知2020(場所:常滑市愛知県国際展示場 Aichi Sky Expo)に出展しテストマーケティングを行い、来春の市販化に向けてさらに準備を進めていきます。

大東憲二教授(総合情報学科 経営情報コース)

リニア中央新幹線静岡工区に係る有識者会議の委員に選ばれました

総合情報学科 経営情報コースの大東憲二教授が、リニア中央新幹線静岡工区に係る有識者会議の委員に選ばれました。

JR東海が2027年の品川-名古屋間の部分開業を目指すリニア中央新幹線は、静岡市の北端部にある南アルプスを横切るトンネルを通す計画です。

南アルプスには大井川の起点があり、中下流域に住む人たちの水源になっています。この南アルプスを貫くトンネル工事により湧出する水が他県に流れ出てしまう懸念があり、静岡県はJR東海に流量確保と水質保全を求めています。

リニアの早期開通を目指すJR東海と、環境への影響の回避・軽減を求める静岡県との間で折り合いがつかず、国土交通省が調整役として関与し、双方の一致点を見出すために有識者会議が開かれることになりました。大東教授は環境地盤工学分野の第一人者として7名の委員の内の1人に選ばれ、今後の議論に参加します。

4月27日(月)には初会合がオンラインで開催され、大東教授は「JR東海は工事で影響が出ないように、(水流出の)兆候が見えた場合にどう対応するかを考えるべきだ」と指摘するなど、問題解決へ向けて発言しました。

渡邊慎一教授(建築学科)

中京テレビ「キャッチ!」で日傘の効果についてコメントしました



6月23日(火)に放送された中京テレビ「キャッチ!」(毎週月曜～金曜午後3時48分放送)で工学部 建築学科の渡邊慎一教授が傘の日除け効果についての実験を監修し、取材を受けました。

コロナ禍によるソーシャル・ディスタンスを確保するため、ある小学校では傘差し登校が行われています。そこで使われている傘は、ほとんどが雨傘であり、雨傘でも熱中症予防になるのか?という疑問がありました。実験により、日傘の方が暑さ指数(WBGT)を下げる効果は大きいですが、雨傘でも暑さ指数を下げる効果があることを示しました。

詳しい番組の内容はこちら

<https://www.ctv.co.jp/news/articles/oz7u4ynd8muztjlu.html>



高橋之准教授(建築学科)

日本コンクリート工学会賞 奨励賞を受賞しました!

工学部 建築学科の高橋之准教授が、日本コンクリート工学会賞 奨励賞を受賞しました。

2020年日本コンクリート工学会賞(論文賞、技術賞、作品賞および奨励賞)は、表彰規定に従い、日本コンクリート工学会賞選考委員会における慎重な審議を経て、14点に日本コンクリート工学会賞(論文賞1点、技術賞4点、作品賞5点、奨励賞4点)を贈ることが決定されました。

高橋之准教授が受賞した研究題目は“Seismic Damage of a Building Caused by Post-installed Anchors Intended to Increase Shear Strength of Structural Wall”です。

この論文は2011年の東北地方太平洋沖地震によって被害を受けた9階建ての鉄骨鉄筋コンクリート構造建物の被害原因を明らかにしています。対象の建物は1978年の宮城県沖地震を経験しており、その後耐震補強工事が行われ、2011年に再び地震を経験しています。この建物には地震計が設置されており、その記録から、1978年の地震と2011年の地震に大差はない。つまり、耐震補強を行ったことによって被害が大きくなってしまいう結果となっており、このような例は他に類を見ません。本論文では構造実験によって、実建物を模擬した試験体が同様の破壊をすることを示しており、あと施工アンカー引き抜きの危険性が確認されています。加えて、荷重増分解析を行った結果、補強後の建物の方が耐震性能が低いことを確認しています。

日本では耐震補強が広く普及していますが、本論文の内容が周知されれば、耐震補強工事における留意点も普及することになり、本論文で対象とした建物のような被害を防止することが期待されます。

2020年 日本コンクリート工学会 受賞者一覧はこちら

https://www.jci-net.or.jp/j/jci/award/img/award_2020_result.pdf



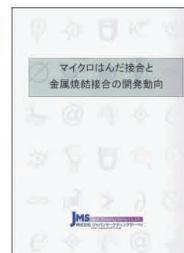
山田靖教授(電気電子工学科)

ジャパンマーケティングサーベイのセミナーで講師を務めました

7月14日(火)に、ジャパンマーケティングサーベイの技術セミナー「マイクロはんだ接合と金属焼結接合の開発動向」で山田靖教授が講師を務めました。

山田教授が担当したのは、「金属粒子を用いた高耐熱接合技術」で、EV/HV技術や次世代パワー半導体の説明に引き続き、接合技術に求められる要件、概況について解説し、Cuナノ粒子接合技術について、加圧と無加圧接合の双方に関して、最新の研究結果を説明しました。さらに、接合技術の特性評価方法についても述べました。

なお今回は、Zoomを用いたWebセミナーで開催されました。



光田恵教授(建築学科 かがりデザイン専攻)

NHK「さらさらサラダ」に出演しました

6月30日(火)に放送されたNHK「さらさらサラダ」に工学部建築学科かがりデザイン専攻の光田恵教授が本学の調香室からリモート出演しました。この番組は新鮮で得する旬の情報を毎日お届けするという内容で、毎週月曜～金曜午前11時30分から放送されています。番組内では、「気になる梅雨のにおいケア」をテーマに高温多湿の梅雨は足や体のおいが気になる人がどうして急増するのか、すぐにできるおい対策などについて解説しました。

番組ホームページはこちら

<https://www4.nhk.or.jp/P550/>



光田恵教授(建築学科 かがりデザイン専攻)

料理雑誌「オレンジページ」で「におわない生ごみの捨て方」の監修を行いました



料理情報誌「オレンジページ」の2020年7/17号における特集「におわない生ごみの捨て方」を光田教授が監修しました。

気温が高くなる夏場においてやすくなる、生ごみの不快なおいの対策として、生ごみ中の水分をできるだけ減らすことや、重曹・クエン酸を使った悪臭物質の中和法、市販のお菓子袋の活用法など、おいの発生を抑える生ごみの捨て方について紹介しています。

岩橋尊嗣非常勤講師(建築学科 かがりデザイン専攻)

NHK「チコちゃんに叱られる!」に出演しました

8月14日(金)に放送されたNHK「チコちゃんに叱られる!」に工学部建築学科かがりデザイン専攻の岩橋尊嗣非常勤講師がリモート出演しました。この番組は、

5歳児のチコちゃんからの素朴な疑問に答えられるかという内容で、毎週金曜日の午後7時57分から放送されています。

番組内では、「雨のにおいってなに?」をテーマに雨のにおいは微生物のオナラのにおいであること、どうしてそのにおいを感じることができるのかなどについて解説しました。

番組ホームページはこちら

[https://www.nhk.jp/p/chicochan/ts/](https://www.nhk.jp/p/chicochan/ts/R12Z9955V3/)

R12Z9955V3/



舟橋慶介准教授、境谷慎吾技術員(情報デザイン学科)

3D切削機の使用事例が紹介されました

ローランド ディー・ジー・株式会社が発行している「教育機関」「研究機関」向けのものづくりソリューションガイド』に3D切削機の使用事例が掲載されました。

記事では、情報デザイン学科で実施している「木製スプーン」を製作する実習が紹介されています。学生自身がデザインしたスプーンを3D切削機を活用し、現実に作り出す様子が、製作された作品とともに掲載されています。



▲「教育機関」「研究機関」向けものづくりソリューションガイド

横山弥生教授(情報デザイン学科)

CG作品が「サロン・ドートンヌ2020」に入選しました

情報デザイン学科の横山教授のCG作品が「サロン・ドートンヌ展」に入選しました。「サロン・ドートンヌ」は、1903年に現在にその名を残すアーティスト達によって歴史をスタートさせ、現在もなお続いている国際的で狭き門として有名な展覧会です。アーティスト達の顔ぶれは、古くはセザンヌ、ピカソ、カンディンスキー、モディリアニなど、日本からは藤田嗣治、東郷青児などがいます。

今年も、パリのシャンゼリゼ通り特設会場で開催される予定でしたが、フランス国内における新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催を断念、不催行となりました。しかし、日本人アーティストの入選作品のみパリの文化の中心地6区のギャラリーで展示されました。また、8月に国立新美術館で開催された「第21回日本・フランス現代美術世界展」にも横山教授のCG作品9点(うち3点が



▲第21回日本・フランス現代美術世界展に展示されたCG作品9点

3Dプリンターによる立体作品)が展示され、そのうちの一点が「サロン・ドートンヌ賞」を受賞しました。来年はアート溢れるパリでの展示が開催されることが望まれます。

大東憲二教授(総合情報学科 経営情報コース)

10/8(木)中日新聞夕刊にコメントが掲載されました

10月8日(木)の中日新聞夕刊1面で情報学部 総合情報学科 経営情報コースの大東憲二教授が「アニマルパス」に関してコメントしました。「ごんぎつねと住める知多半島を創ろう」を合言葉に



▲10月8日(木)付 中日新聞

した「知多半島生態系ネットワーク協議会」の会長である大東教授は、「環境や生態系保護の活動は継続こそが重要であり、困難でもある。地域に根を下ろした企業の積極的な関与が鍵になる」と意見を述べました。

武藤隆教授(建築学科)

10/10(土)中日新聞夕刊に 執筆記事が掲載されました



▲10月10日(土)付 中日新聞

10月10日(土)の中日新聞夕刊4面文化・芸能面に、「街に背を向けた再開発 久屋大通公園の改修に寄せて」と題して武藤隆教授が寄稿しました。

久屋大通公園の改修に対して、歴史や都市の文脈をいかに読み解きながら設計すべきかという視点と、公共事業やPFI事業で発注者はどうあるべきかという視点を加え、ま

ちに対しての表と裏をはき違えたまま、発注・計画・施工されてしまったことに対して、景観への配慮や、その議論の必要性を問うています。

澤岡昭名誉学長

「はやぶさ2」について講演しました

10月11日(日)愛西市文化会館にて、澤岡昭名誉学長が『生命誕生の謎に挑戦する「はやぶさ2」』をテーマに講演しました。

「リュウグウ」を離れ、近く帰還予定(2020年12月6日)の「はやぶさ2」の意義や期待を、多くの技術開発の取組み事例や主なミッションである「採取岩石からの生命誕生の解明」などを交えて話しました。

「はやぶさ2」の長い期間の運用や岩石採取は、「初号機 はやぶさ」の立て続いたトラブルやシステム障害などの徹底的な検証・対策によってもたらされ、粘り強く、妥協を許さない技術者たちの挑戦を紹介しました。受講者から「はやぶさ2」本体のリエントリー計画、宇宙開発技術から得られているビジネス事例など踏み込んだ質問が寄せられていました。

今回、コロナ禍での開催となり、受講者の大幅な人数抑制・座席指定、マスク着用など万全な予防対策のなか実施されました。



▲講演の様子

岡田心准教授(情報デザイン学科)

「ジェネレーティブデザインが拓く ものづくりの未来」について講演しました

10月9日(金)に公財)名古屋産業振興公社ものづくりデザインプラットフォーム、名古屋市工業研究所主催のワークショップ「ものづくりを“劇的”に変えるジェネレーティブデザインとは」が開催されました。

ものづくりデザインプラットフォーム会長でもある情報学部 情報デザイン学科の岡田心准教授が「ジェネレーティブデザインが拓くものづくりの未来」をテーマとしたトークセッションを行いました。

トークセッションでは、ジェネレーティブデザインを利用するにあたり、どのような未来が想像でき今後どのように我々は対応、変化していく必要があるのか、コンピュータを使う人間との関係を大学教育と企業のそれぞれの現場から見た期待と未来について、ファシリテーターを務めました。



▲講演のチラシ

光田恵教授(建築学科 かわりデザイン専攻)

テレビ朝日「サンデーセッション」 に出演しました



10月18日(日)に放送されたテレビ朝日「サンデーセッション」に工学部建築学科 かわりデザイン専攻の光田恵教授が出演しました。この番組は毎週日曜日の午後9時~放送されています。

番組内では、神奈川県での「異臭騒ぎ」について4つの仮説の独自検証に同行し、「異臭が感じられている地域が広範囲であり、住民の方が感じられたにの質も様々であることから今後、詳細なにおいの成分分析、においの感じられ方の分布調査などを行い、引き続き検討をしていく必要があると考えています。」とコメントしました。

番組公式HPはこちらから

<https://www.tv-asahi.co.jp/sun-st/>


田中宏昌准教授(教養部)

研究論文が国際学術誌の表紙に選ばれました

教養部化学教室の田中宏昌准教授の研究論文が、国際学術雑誌“Chemistry—A European Journal”の表紙に選ばれました。さらに、その研究内容がCover Profileで紹介され、大同大学のロゴが、東京大学と九州大学のロゴと並んで掲載されました。この研究は、空気中の窒素をアンモニアに変換する、窒素固定という化学プロセスの開発に関するものです。2017年に開発した高性能触媒による窒素変換メカニズムを、実験と理論計算を駆使して明らかにしました。この研究が発展すると肥料の原料となるアンモニアが省エネで合成できるようになり、人類の食糧不足の解決につながります。東京大学の西林仁昭教授、九州大学の吉澤一成教授らとの共同研究の成果で、田中准教授はコンピュータシミュレーションによるメカニズム解析を担当しました。

論文のタイトルと著者などの情報は以下の通りです。

“Cycling between molybdenum-dinitrogen and -nitride complexes to support reaction pathway for catalytic formation of ammonia from dinitrogen” Kazuya Arashiba, Hiromasa Tanaka, Yoshiaki Nishibayashi, and Kazunari Yoshizawa Chem. Eur. J., 26, 13383-13389 (2020). DOI: 10.1002/chem.202002200



▲Chemistry—A European Journalの表紙

「命をつなぐPROJECT 学生実行委員会」が「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」に選出されました

本学の学生が多く所属し、愛知県知多半島を拠点に環境活動を行う学生団体「命をつなぐPROJECT 学生実行委員会」がこの度、「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」に選出されました。愛知県と名古屋市は、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)以降に、愛知県内で行われた生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取組事例を募集し、その中から優れた事例として「ベストプラクティス(20件)」、「グッドプラクティス(123件)」を選定。こうした取組を広く県内に広げていくため、「市民団体・NPO」、「企業」、「教育機関」、「行政・その他」という取組主体ごとに取組内容をまとめ、分かりやすく紹介する冊子「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」及び概要版が発行されました。冊子及び概要版については、県内市町村、公立図書館等へ配布するとともに、県の公式WEBサイトにも掲載されます。

「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」についてはこちら

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/bestpractice.html>

冊子「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」

https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/307078_1171560_misc.pdf



製図室の設備が新しくなりました

機械工学科で使用している製図室の装置の更新が行われました。プロジェクタや天井から吊り下げるディスプレイを導入することで、ドラフターで自分の図面と教員が説明していることの両方が見やすくなり、学修内容の理解がしやすくなりました。

2020年度から改定されたカリキュラムにおいて、機械工学科では全ての学年における設計や製図に関わる授業内容の見直しをしました。学生の学修のために、学習内容や装置などよりよい環境を提供していきます。



▲設備が更新された製図室

高木英樹さん(2008年度卒業 情報学部 情報学科)

卒業生がフェイスシールドを量産し、医療現場へ無償提供を続けています

情報学部 情報学科の卒業生、高木英樹さんが所属する有限会社高木金型製作は、安城市の商工会議所を中核とした異業種連携プロジェクト「AnjoHearts」のメンバーで、主に自動車用部品の射出成形金型を設計・製作しています。安城市の産業は自動車部品産業に支えられていますが、自動車部品製造への過度の一極化という課題を抱える中、「AnjoHearts」は高い技術力を生かした製品の新たな販路を模索し、オリジナル商品づくりにチャレンジしています。2019年度には高木さんが情報デザイン学科の岡田心准教授に声がけしたことがきっかけで「AnjoHearts」と情報デザイン学科とのコラボレーションが始まり、現在、産学連携でオリジナル製品を開発中です。

新型コロナウイルス感染症が拡大する状況の中、顔を覆って飛沫感染を防ぐ「フェイスシールド」の量産に「AnjoHearts」が動き出しています。

高木さんがフェイスシールドのフレームを3Dプリンターで作るためのデータがインターネット上に公開されているのを見つけたのがきっかけで、4月10日(金)にデータの作成者に連絡を取り、量産の許可を得ました。

生産にあたって「AnjoHearts」のメンバーであるプラスチック再生加工業「フジイ化工」とプラスチック成形業「壱武工業所」、システム開発「ウイズキューブ」に声をかけました。製品名は「A-MASK」。フレーム部分の金型を高木さんが作成、フジイ化工が扱うペットボトルキャップの再生材を使い、壱武工業所が量産を担います。ウイズキューブはweb申込みや在庫管理を行います。3Dプリンターだと1つ作るのに30分から45分かかるところ、金型を使えば1時間に

240個の製造が可能です。

最初に製造した5,000個では不足、現在は週に約40,000個のペースで生産し無償提供を続けています。

世界が未知のウイルスという不安に襲われる中、「AnjoHearts」のメンバーそれぞれが出来る社会貢献を考えた結果が「A-MASK」というフェイスシールドに結実しました。今後も「AnjoHearts」のメンバー企業に資金面などで協力を呼びかけ、協賛金が続く限り無償で続けて行く予定です。

日本の医療現場を救うため、卒業生が頑張っています。

また、この内容が5月21日(木)、東海テレビ「ニュースOne」(毎週月～金16:49～放送)で、取り上げられました。

番組内では、高木英樹さんが所属する有限会社高木金型製作が愛知県内の企業と共同し、フェイスシールドを1日8000個生産。これまで全国の医療現場など約330ヵ所、1万7000個以上を無料で提供していることが取り上げられました。

高木さんは、「今僕たちが普通に生活できているのは、医療現場やスーパーで接客している方のおかげ。そういう人たちの不安が少しでもなくなれば良い」とコメントしました。



深谷結衣さん(2017年度卒業 建築学科 建築専攻) 朝日新聞に掲載されました

2017年度建築学科 建築専攻の卒業生、深谷結衣さんが大同大学の新校舎の現場監督を務めていることが10月21日(水)の朝日新聞デジタル、10月22日(木)朝日新聞夕刊に掲載されました。

記事の詳細はこちら(全文読むには会員登録が必要)

<https://www.asahi.com/articles/ASNBJ6G1KNBD0IPE03Z.html>



◀10月22日(木)付
朝日新聞

「命をつなぐPROJECT 学生実行委員会」が緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰を受賞しました

本学の学生が多く所属し、愛知県知多半島を拠点に環境活動を行う学生団体「命をつなぐPROJECT 学生実行委員会」がこの度、令和2年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰は、緑化活動の推進や緑化思想の普及啓発について、顕著な功績のあった個人又は団体について内閣総理大臣が表彰するものです。

スキー山岳部史を 寄贈いただきました

本学OBの森光照さん、大川司さん、長瀧哲一郎さんより、「スキー山岳部史」を寄贈いただきました。

スキー山岳部(現スキー部)は1964年に創部した歴史ある部であり、これまでの山行記録等の様々な資料のほか、「スキー山岳部」と書かれた立て看板が見つかったことが、今回の部史発行のきっかけになったそうです。部史には部員の手記や思い出



▲スキー山岳部史の表紙

のスナップなど「スキー山岳部」の歴史がたくさん詰まっています。

本学図書館に蔵書されておりますのでぜひご覧下さい。



◀スキー山岳部OBの3名と学長

新刊紹介

エレクトロニクス実装学会誌に 巻頭言が掲載されました

山田靖教授(電気電子工学科)

9月1日発行のエレクトロニクス実装学会誌の巻頭言に、電気電子工学科の山田教授が執筆した「大学におけるエレクトロニクス実装教育」の記事が掲載されました。

大学における、電子回路等の実装技術に関する教育の必要性について述べています。

なお山田教授は、2020年6月に同学会の理事に就任し、会誌発行副委員長、MES論文副委員長も務めています。



専門図書

「プリント配線板材料の開発と実装技術」 の一部を執筆しました

山田靖教授(電気電子工学科)

5月29日(金)に技術情報協会から発行された専門図書「プリント配線板材料の開発と実装技術」で、一部の執筆を山田教授が担当しました。本書はパワーエレクトロニクスや高周波機器などの実装技術に関する書籍で、山田教授は、第3章1節の「パワーデバイス実装用Cuナノ粒子接合技術」を担当しました。

出版社のサイトはこちらからご覧になれます

https://www.gijutu.co.jp/doc/b_2054.htm



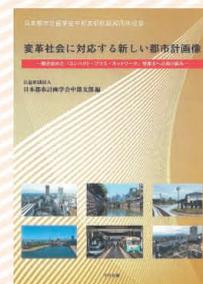
発行日:2020年5月29日
頁数:713頁
発行所:技術情報協会
ISBN:978-4-86104-787-9



『変革社会に対応する新しい都市計画像 ー動き始めた「コンパクト・プラス・ ネットワーク」型都市への取組みー』

嶋田喜昭教授、樋口恵一講師(建築学科 土木・環境専攻)

9月30日(水)に日本都市計画学会中部支部から発行された『変革社会に対応する新しい都市計画像-動き始めた「コンパクト・プラス・ネットワーク」型都市への取組み-』には、大学等の研究者、民間企業の専門家、行政の担当者らの最新の研究・実務・施策等が盛り込まれており、土木・環境専攻の嶋田喜昭教授と樋口恵一講師が分担執筆しています。都市計画やまちづくりにかかわる自治体担当者 ●コンサルタント ●学生 ●市民団体 ●NPO 等に最適な1冊です。興味・ご関心のある方はぜひ手に取ってみてください。



2020年度前期 学位記授与式を挙りました

9月22日(火・祝)に、滝春キャンパスA棟にて2020年度前期学位記授与式を挙りました。神保学長から卒業生一人ひとりに学位記が授与されました。

【卒業生内訳】

工学部		情報学部	
総合機械工学科	4名	情報システム学科	3名
電気電子工学科	1名	情報デザイン学科	3名
		総合情報学科	1名



伊藤誠悟さん、堀木俊宏さん、大沢絵理佳さん、安藤空さん 「私の改善」で表彰されました

管財室の伊藤誠悟さん、学生室の堀木俊宏さん、大沢絵理佳さん(元職員)、安藤空さんが「私の改善」において表彰されました。

「私の改善」は事務職員が日常業務のなかで発明考案・業務改善に取り組み、その業績が顕著であると認められた提案が表彰されるものです。

各提案・表彰区分は以下のとおりです。おめでとうございます。



表彰区分	表彰者	提案テーマ
理事長賞	伊藤誠悟さん(管財室)	年間・電気使用料金(基本料金)の大幅削減について
優秀賞	安藤空さん(学生室)	仮学生証のシステム化について
優良賞	堀木俊宏さん(学生室)	誓約書と学生カードの様式の変更(一体化)について
	大沢絵理佳さん(元学生室)	

新任教員紹介



小屋 菜穂子 准教授 教養部 保健体育教室

2020年9月より教養部保健体育教室に着任しました小屋です。専門分野は体カトレーニング学、専門競技はテニスです。

授業でみなさんとお会いすることを楽しみにしています。よろしく願います。

